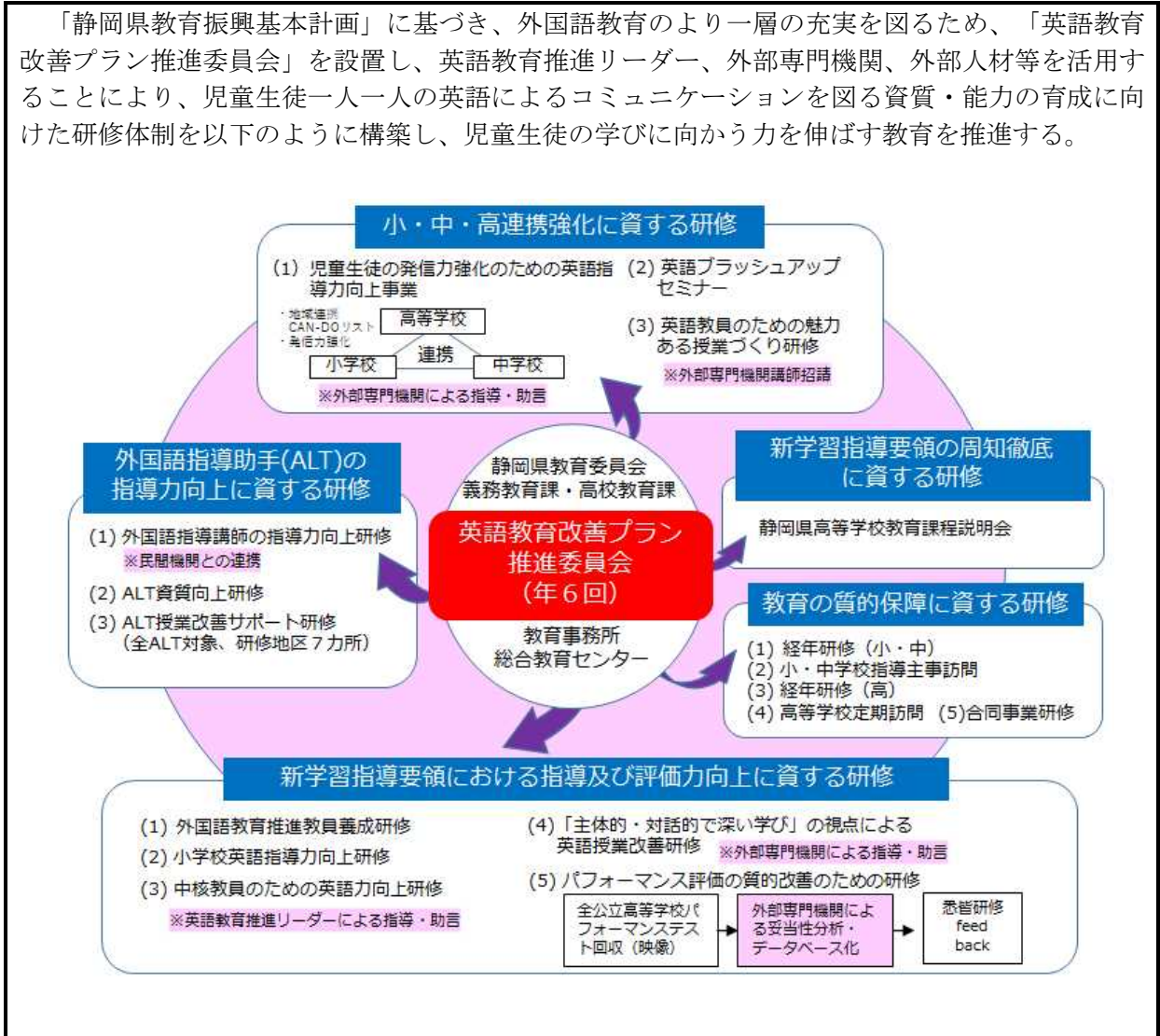


静岡県英語教育改善プラン

実施内容

(1) 研修体制の概要



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

1 求められる英語力を有する英語担当教員の割合

| | | 中学校 | 高等学校 |
|--------|-----|-----|------|
| 2018年度 | 達成値 | 32% | 69% |
| 2019年度 | 達成値 | 37% | 71% |
| 2020年度 | 目標値 | 38% | 75% |
| 2021年度 | 目標値 | 41% | 75% |
| 2022年度 | 目標値 | 44% | 80% |

【中学校】達成値は徐々に増加している。今後も英語担当教員の意識改善が必要であり、引き続き、外部検定試験を盛り込んだ研修や英語教育推進リーダーによるモデル授業の参観等を通して、英語力向上に向けた意識を高めていく。また、教員採用試験において英語に関する資格等の所有者に加点制度を実施する。

【高等学校】達成値は徐々に増加している。英語担当教員の英語力の向上を促すために、各種研修において、英語指導法について英語を通して学ぶことのできる講義・演習を設定することにより、授業力のみでなく英語力を向上させることの意識付けを行う。

2 求められる英語力を有する生徒の割合

| | | 中学校 | 高等学校 |
|--------|-----|-----|------|
| 2018年度 | 達成値 | 40% | 43% |
| 2019年度 | 達成値 | 38% | 46% |
| 2020年度 | 目標値 | 45% | 50% |
| 2021年度 | 目標値 | 48% | 50% |
| 2022年度 | 目標値 | 50% | 55% |

【中学校】「CEFR A1 レベル相当以上を取得している生徒数」が増加したものの、「CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒数」が大きく減少した。教員が生徒の英語力を適切に評価できていない可能性も考えられるため、パフォーマンス評価に関する研修を実施し、教員が生徒の英語力を評価する際の精度を高める。

【高等学校】CEFR A2 レベルの英語力を有する生徒の割合は年々増加している。生徒の英語力について、CEFR を踏まえた CAN-DO リストの作成に加え、パフォーマンス評価による CEFR の達成率の提出をパフォーマンス評価実践事例とともに全ての高校に求め、その分析結果を各校へフィードバックしている。これにより、生徒に求めたい英語力への理解が進んできているため、引き続き外部専門機関等と連携し、より詳細な分析結果を報告することにより、生徒の英語力をより適切に把握するパフォーマンス評価及び課題の設定を促す。

3 (1) 学習到達目標の整備状況 (設定)

| | | 小学校 | 中学校 | 高等学校 |
|--------|-----|-----|------|------|
| 2018年度 | 達成値 | | 100% | 100% |
| 2019年度 | 達成値 | | 99% | 100% |
| 2020年度 | 目標値 | 10% | 100% | 100% |
| 2021年度 | 目標値 | 20% | 100% | 100% |
| 2022年度 | 目標値 | 30% | 100% | 100% |

(2) 学習到達目標の整備状況 (公表)

| | | 小学校 | 中学校 | 高等学校 |
|--------|-----|-----|-----|------|
| 2018年度 | 達成値 | | 15% | 35% |
| 2019年度 | 達成値 | | 19% | 43% |
| 2020年度 | 目標値 | 5% | 25% | 100% |
| 2021年度 | 目標値 | 10% | 30% | 100% |
| 2022年度 | 目標値 | 15% | 35% | 100% |

(3) 学習到達目標の整備状況 (達成状況の把握)

| | | 小学校 | 中学校 | 高等学校 |
|--------|-----|-----|-----|------|
| 2018年度 | 達成値 | | 48% | 62% |
| 2019年度 | 達成値 | | 41% | 71% |
| 2020年度 | 目標値 | 5% | 60% | 100% |
| 2021年度 | 目標値 | 10% | 70% | 100% |
| 2022年度 | 目標値 | 15% | 80% | 100% |

【中学校】新学習指導要領の実施に向けて、CAN-DO リストを見直す必要がある。学習評価に適切に活用できる CAN-DO リストの作成を目指し、研修を実施する。2021 年度には全ての中学校に新たな CAN-DO リストの作成・提出を求める。

【高等学校】3 年前に CAN-DO リストの県の様式を見直し、4 技能 5 領域において CEFR に基づいた学習段階を設定し、4 技能 5 領域において言語活動を具体的に記載する等、段階的にその内容の充実を図ってきた。その結果、公表及びパフォーマンス評価による達成状況の把握の割合が増えている。引き続き、全校に CAN-DO リストの改善及び提出を求めていく。

4 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合

| | | 中学校 | 高等学校 |
|--------|-----|-----|------|
| 2018年度 | 達成値 | 79% | 50% |
| 2019年度 | 達成値 | 81% | 63% |
| 2020年度 | 目標値 | 85% | 65% |
| 2021年度 | 目標値 | 90% | 75% |
| 2022年度 | 目標値 | 90% | 75% |

【中学校】毎年割合が伸びており、言語活動を通して4技能5領域をバランスよく育成しようとする教員の意識がうかがえる。引き続き、新学習指導要領で求められる授業改善に向けて、学校訪問や各種研修会等で繰り返し伝えるとともに、事例紹介等も行っていく。

【高等学校】各種研修において、新学習指導要領を踏まえ、複数の領域を結び付けた統合的な言語活動が重要であることを繰り返し伝えている。発信力強化のための研修や英語教育推進リーダーによる公開授業等において、好事例を紹介することにより、活動の具体が周知され、生徒の英語による言語活動の割合が増えている。今後は、学習評価の充実と関連づけた授業改善の在り方を示しながら、授業改善を図っていく。

5 (1) パフォーマンステストの実施状況【中学校】

| | | スピーキング | ライティング |
|--------|-----|--------|--------|
| 2018年度 | 達成値 | 3回 | 3回 |
| 2019年度 | 達成値 | 4回 | 3回 |
| 2020年度 | 目標値 | 4回 | 3回 |
| 2021年度 | 目標値 | 4回 | 4回 |
| 2022年度 | 目標値 | 4回 | 4回 |

(2) パフォーマンステストの実施状況【高等学校】

| コミュニケーション英語Ⅰ | | | |
|--------------|-----|--------|--------|
| | | スピーキング | ライティング |
| 2019年度 | 達成値 | 3回 | 3.1回 |
| 2020年度 | 目標値 | 4回 | 4回 |

| コミュニケーション英語Ⅱ | | | |
|--------------|-----|--------|--------|
| | | スピーキング | ライティング |
| 2019年度 | 達成値 | 2.7回 | 3.1回 |
| 2020年度 | 目標値 | 4回 | 4回 |

| コミュニケーション英語Ⅲ | | | |
|--------------|-----|--------|--------|
| | | スピーキング | ライティング |
| 2019年度 | 達成値 | 2.3回 | 2.6回 |
| 2020年度 | 目標値 | 4回 | 4回 |

| 英語表現Ⅰ | | | |
|--------|-----|--------|--------|
| | | スピーキング | ライティング |
| 2019年度 | 達成値 | 3.2回 | 2.8回 |
| 2020年度 | 目標値 | 4回 | 4回 |

| | | 英語表現Ⅱ | |
|--------|-----|--------|--------|
| | | スピーキング | ライティング |
| 2019年度 | 達成値 | 2.9回 | 3.1回 |
| 2020年度 | 目標値 | 4回 | 4回 |

【中学校】学期に1回程度のパフォーマンステストが実施されていることが達成値から読み取れる。全国学力・学習状況調査の問題を活用した研修の効果も考えられる。評価に関する研修を通して、多面的・多角的な評価方法を用いることに対する教員の意識改善を図る。

【高等学校】各学校で実施したパフォーマンステスト（「話すこと」「書くこと」）の実践事例（評価活動、ルーブリック、生徒の解答例）を回収して3年目となる。文部科学省委託事業「中学校・高等学校における英語教育の抜本的改善のための指導方法等に関する実証研究」において、回収したパフォーマンステストの分析を静岡大学に依頼し、改善点などをフィードバックするとともに、好事例の紹介を行っている。どの科目においても各学期1回（年3回）程度のパフォーマンステストを行うことが平均的となっている。

6 英語担当教員の授業における英語使用状況

| | | 中学校 | 高等学校 |
|--------|-----|-----|------|
| 2018年度 | 達成値 | 78% | 51% |
| 2019年度 | 達成値 | 81% | 61% |
| 2020年度 | 目標値 | 84% | 100% |
| 2021年度 | 目標値 | 88% | 100% |
| 2022年度 | 目標値 | 90% | 100% |

【中学校】割合は増加傾向である。英語教育推進リーダーによる研修実習や研修協力校における公開授業研修会により、教員の意識が高まっていると考える。新学習指導要領で求められる授業改善に向けて、多くの教員がモデル授業から学ぶ場を設定する。

【高等学校】公開授業を複数設定し、英語で行う授業モデルの共有を継続してきた結果、割合が増加している。生徒の豊富な英語使用を促し、英語による言語活動を行うことを授業の中心とすることができるよう、各種研修において、教師の英語使用の好事例を記録した動画等を活用しながら、授業における英語使用について質的改善を促していく。

7 研修実施回数、研修受講者の人数

| | | 小学校 | 中学校 | 高等学校 |
|--------|-----|-----------|----------|-----------|
| 2018年度 | 達成値 | 37回 1332人 | 35回 744人 | 49回 1196人 |
| 2019年度 | 達成値 | 32回 1866人 | 31回 873人 | 34回 818人 |
| 2020年度 | 目標値 | 20回 1000人 | 25回 550人 | 40回 1000人 |
| 2021年度 | 目標値 | 20回 1000人 | 25回 550人 | 40回 1000人 |
| 2022年度 | 目標値 | 20回 1000人 | 25回 550人 | 40回 1000人 |

【小・中学校】研修受講者数は年々増加しており、特に研修協力校における公開授業研修会には多くの教員が参加した。また、各研修会のアンケート結果から、受講者の意欲の高さが読み取れた。引き続き、研修内容の充実を図り、求められている授業改善の方向性について共通理解を図るとともに、教員一人一人の指導力向上に向けた実践につなげていく。

【高等学校】英語教育推進リーダーによる研修が終了した。教員の働き方改革の視点から、研修実施回数を増やすのではなく、研修体系の見直しと研修の精選を行い、授業動画の活用等、効率の良い研修を行う。また、外国語指導助手（ALT）の資質・能力を向上させるための研修やパフォーマンス評価の改善など、急務となっている課題についての研修を重点的に行う。

8 新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合

| | | 小学校 |
|--------|-----|------------|
| 2020年度 | 目標値 | 25% (70人) |
| 2021年度 | 目標値 | 30% (80人) |
| 2022年度 | 目標値 | 35% (85人) |
| 2023年度 | 目標値 | 40% (95人) |
| 2024年度 | 目標値 | 45% (105人) |
| 2025年度 | 目標値 | 50% (115人) |

※作成時点での目標値であり、定年延長等の条件を加味していない。

静岡県では教員採用試験受験者のうち、中学校英語免許取得（取得見込み）者又は、英語に関する資格等の所有者に対し、加点制度を取り入れている。加点制度を希望する受験者は年々増加しており、新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合が、2018年度採用者は11%、2019年度は18%となった。今後は受験者の状況を考慮しながら、加点する点数の見直しや選考方法の検討・改善を図り、英語力を有する人材の確保に向けて取り組んでいく。

(3) 研修の体系と内容の具体

【研修の体系】 (2020年度～2022年度)

目標管理における本県の英語教育の状況を踏まえ、新学習指導要領改訂の趣旨及び要点に基づき、英語教育の改善に資する研修を5つに分類し、英語教育推進リーダー、外部専門機関や外部人材等を活用しながら体系的に計画・実施する。また、小・中・高等学校の外国語担当指導主事を中心に組織される「英語教育改善プラン推進委員会」を設置し、より良い研修の在り方や普及に向けた検討を積み重ねる。

一方、働き方改革の視点から、研修内容の重点化と効率化を図る。具体的には、小・中学校が先行して取り組む観点別学習状況の評価と高等学校が取り組む英語で行う授業実践を、相互に共有することにより、学校種間の接続を進めるとともに、それぞれが持つ課題の解決を目指す。また、新学習指導要領の円滑な実施に向けて、CAN-DO リストの活用及びパフォーマンス評価による達成状況の把握等、急務となっている課題に関する研修を重点的に行う。これらの取組を、データベース化も含め、効率的かつ効果的に普及し、広く英語教育改善への意識改革を促す。

1 小・中・高連携強化に資する研修

- (1) 児童生徒の発信力強化のための英語指導力向上事業
- (2) 英語ブラッシュアップセミナー
- (3) 英語教員のための魅力ある授業づくり研修

2 新学習指導要領における指導及び評価力向上に資する研修

- (1) 外国語教育推進教員養成研修（新規）
- (2) 小学校英語指導力向上研修（新規）
- (3) 中核教員のための英語力向上研修
- (4) 「主体的・対話的で深い学び」の視点による英語授業改善研修（新規）
- (5) パフォーマンス評価の質的改善のための研修

3 外国語指導助手（ALT）の指導力向上に資する研修

- (1) 静岡県外国語指導講師の指導力向上研修
- (2) ALT資質向上研修
- (3) ALT授業改善サポート研修（新規）

4 新学習指導要領の周知徹底に資する研修

静岡県高等学校教育課程説明会

5 教育の質的保障に資する研修

- (1) 経年研修（小・中）（①初任者研修（小）、②初任者研修（中）、③6年次研修、④中堅教諭等資質向上研修）
 (2) 小・中学校指導主事訪問
 (3) 経年研修（高）（①1・2年次初期、②6年次研修、③中堅教諭等資質向上研修）
 (4) 高等学校定期訪問
 (5) 静岡県高等学校英語教育研究会との合同研修（授業研究協議会）

【研修内容の具体】（2020年度）

1 小・中・高連携強化に資する研修

(1) 児童生徒の発信力強化のための英語指導力向上事業

| | |
|---------|---|
| 対 象 者 | 小学校教員、中学校・高等学校及び特別支援学校英語担当教員 |
| 目 的 | 小・中・高等学校の各段階で研修協力校を設定し、小・中・高等学校の連携について研究を進めるとともに、教員の英語指導力向上のための取組の充実を図る。 |
| 内 容 | 運営協議会、校内授業研修会、連携推進委員会、公開授業研修会、地域で育成を図る資質・能力の明確化、小・中・高等学校がつながる CAN-DO リストの作成、観点別評価の在り方についての研修 |
| 受講予定者数 | 300人 |
| 研修協力校 | 県内2地区6校（予定） 【伊豆の国地区】 伊豆の国市立大仁北小学校、伊豆の国市立大仁中学校、近隣高等学校 【焼津地区】 焼津市立豊田小学校、焼津市立豊田中学校、近隣高等学校 |
| 外部専門機関等 | 外部専門機関からの指導・助言を得る。※所属役職は令和2年3月末のもの 大阪成蹊大学 教育学部 准教授 赤沢 真世 氏 常葉大学 外国語学部 准教授 柴田 里実 氏 朝日大学 法学部 准教授 亀谷 みゆき 氏 敬愛大学 国際学部 教授 向後 秀明 氏 静岡大学 教育学部 准教授 亘理 陽一 氏 |
| 評 価 方 法 | 事業アンケート（定量的、定性的データ）、公開授業参加者アンケート |
| 備 考 | 2つの教育事務所管内にある市町教育委員会33地区のうち各1地区を指定し、各地区にある小・中・高等学校から研修協力校をそれぞれ1校指定する。研修内容の継続性、発展性及び普及率を高めつつ、地区は年度更新にて2年ごとに変更する。 |

(2) 英語ブラッシュアップセミナー

| | |
|---------|--|
| 対 象 者 | 小学校教員、中学校・高等学校及び特別支援学校英語担当教員 |
| 目 的 | 英語によるコミュニケーション活動を通じて、グローバル市民としての視点を養いつつ、基礎・向上期及び充実・発展期の教員に求められる英語力及び授業力の向上を図る。 |
| 内 容 | 英語の4技能5領域を統合した言語活動体験、論理的思考力・批判的思考力の育成をねらいとした言語活動体験、自校での活用に関する協議 |
| 受講予定者数 | 24人 |
| 評 価 方 法 | 研修アンケート（目標達成度及び自由記述） |

(3) 英語教員のための魅力ある授業づくり研修

| | |
|---------|---|
| 対 象 者 | 中学校、高等学校及び特別支援学校英語担当教員 |
| 目 的 | 新学習指導要領における外国語の教科指導の在り方について理解することにより、基礎・向上期及び充実・発展期の教員に求められる授業力、英語の4技能5領域の総合的な育成を目指した授業づくり、その他の資質向上を図る。 |
| 内 容 | 講演講師による講義・演習 「心に響く発信力育成の授業づくり～コミュニケーションを図る資質・能力の育成～」 |
| 受講予定者数 | 28人 |
| 外部専門機関等 | 外部専門機関より講師を招請する。朝日大学 准教授 亀谷 みゆき 氏 |
| 評 価 方 法 | 研修アンケート（目標達成度及び自由記述） |

2 新学習指導要領における指導及び評価力向上に資する研修

【小・中学校】

(1) 外国語教育推進教員養成研修（新規）

| | |
|---------|---|
| 対 象 者 | LETS認定候補者、中学校英語担当教員 |
| 目 的 | 小学校における外国語教育の早期化・教科化に対応し、各校における外国語教育推進者となりうる教員の育成及び小中連携の一層の促進を図る。 |
| 内 容 | 県教育委員会指導主事等による講義・演習 |
| 受講予定者数 | 500人 |
| 評 価 方 法 | 研修アンケート（目標達成度及び自由記述） |
| 備 考 | *LETS認定…豊かな英語指導力がある小学校教員に対し、「LETS (License for Elementary English Teaching in Shizuoka)」という県独自の指導資格の認定を進めている。英語免許保有教員やLETS認定教員が各小学校の外国語教育推進教員として、各校の指導体制の充実を図る。 |

(2) 小学校英語指導力向上研修

| | |
|---------|---|
| 対 象 者 | 小学校、中学校、特別支援学校教員 |
| 目 的 | 小学校外国語教育の充実に向けた教科指導の在り方についての研修を通して、教員に求められる授業力、その他の資質能力の向上を図る。 |
| 内 容 | 文部科学省視学官による講義 「小学校外国語活動・外国語科における授業及び評価の視点」（仮） 演習「単元構想及び評価についての演習」（予定） |
| 受講予定者数 | 1回50人×2回 |
| 評 価 方 法 | 研修アンケート（目標達成度及び自由記述） |

(3) 中核教員のための英語力向上研修（新規）

| | |
|---------|---|
| 対 象 者 | 学校において中核的な立場にある小学校外国語教育担当教員、中学校英語担当教員 |
| 目 的 | 新学習指導要領における外国語指導力を高めるとともに、指導者としての英語力向上に向けた意識改善を図る。また、外部検定試験の受験を通して、自身の英語力を確認するとともに、英語力向上に向けた継続的な学習の契機とする。 |
| 内 容 | ・英語教育推進リーダーによる公開授業の参観と協議 ・外部検定試験の受験と振り返り |
| 受講予定者数 | 80人 |
| 評 価 方 法 | 研修アンケート（目標達成度及び自由記述） |

【高等学校】

(4) 「主体的・対話的で深い学び」の視点による英語授業改善研修（新規）

| | |
|---------|---|
| 対 象 者 | 高等学校英語担当教員 |
| 目 的 | 新学習指導要領における、生徒の資質・能力の育成を目指す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善と学習評価についての理解と実践化を促進する。 |
| 内 容 | 「主体的・対話的で深い学び」を実現するために静岡県が定める「授業設計診断4項目」に基づく授業改善、年間指導計画及の見直し、新学習指導要領の実施を見据えた指導案の改善、ICTの効果的な活用 等 |
| 受講予定者数 | 10人 |
| 研修協力校 | 県立高等学校1校 |
| 外部専門機関等 | 外部専門機関（大学）からの指導・助言 敬愛大学 国際学部 教授 向後 秀明 氏 |
| 評 価 方 法 | アンケート調査（定量的、定性的データ）、ビデオ記録及び分析 |

(5) パフォーマンス評価の質的改善のための研修

| | |
|---------|--|
| 対 象 者 | 高等学校及び特別支援学校英語担当教員 |
| 目 的 | 「CAN-DO リスト」形式による学習到達目標の達成状況を把握するためのパフォーマンス評価を分析し、指導と評価に係る知識と技能を得ることにより、生徒の英語によるコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための教員の評価力の向上を図る。 |
| 内 容 | 全ての公立高等学校（88校）で実施したCAN-DOリストにおけるCEFR A2レベル「話すこと」（〔やり取り〕〔発表〕）の達成状況を把握するためのパフォーマンス評価（ループリック、生徒の音声画像データ）の回収及び分析、評価の信頼性、妥当性、効率性等の向上についての講義、評価分析結果に基づいた授業改善についての講義・演習 等 |
| 受講予定者数 | 140人 |
| 研修協力校 | データ提供校：全ての公立高等学校（88校） |
| 外部専門機関等 | 中央大学理工学部 准教授 福田 純也 氏 |
| 評 価 方 法 | 外部専門機関による評価 |
| 備 考 | 文部科学省委託事業「中学校・高等学校における英語教育の抜本的改善のための指導方法等に関する実証研究」において平成29年度より3年間取り組んできた全公立高等学校のパフォーマンス評価の分析・データベース化を継続及び発展させることにより、本県の喫緊の課題である指導とパフォーマンス評価の一体的な改善についての進展を図る。 |

3 外国語指導助手（ALT）の指導力向上に資する研修

【小・中・高等学校】

(1) 外国語指導講師の指導力向上研修（SDC: Skills Development Conference）

| | |
|--------|--|
| 対象者 | JETプログラムにより招致されている外国語指導講師（ALT）、ALTと同数程度の小中学校・高等学校の外国語担当教諭 |
| 目的 | ALTに効果的な語学指導を行うために必要な知識、指導技術等を習得させるとともに、外国語担当教諭等と外国語教育に関する諸問題について研究協議を行い、もって本県の外国語教育の充実に資する。 |
| 内容 | 21世紀型能力の育成を目指した授業づくり（タスクと評価の在り方）についての講義・演習、ALT及び日本人外国語担当教員（JTE）のコラボレーションによる4技能5領域の育成を目指した授業実践発表、授業アイデアバザー等 |
| 受講予定者数 | ALT162人、JTE96人（×2日） |
| 評価方法 | 研修アンケート（定量的、定性的データ） |
| 備考 | 3(3)「ALT授業づくりサポート研修」との関連付けを図る。 |

【小・中学校】

(2) ALT資質向上研修

| | |
|--------|---|
| 対象者 | 市町教育委員会所属のALT（外国語指導助手）等 |
| 目的 | 文部科学省から出される情報を英語で提供することで、日本の小・中学校の外国語教育を深く理解する機会とする。また、実践研修を通して資質及び指導力の向上を図る。 |
| 内容 | 委託業者による講義・演習（年2回実施） |
| 受講予定者数 | 100人 |
| 評価方法 | 研修アンケート（目標達成度及び自由記述） |

【高等学校】

(3) ALT授業改善サポート研修（新規）

| | |
|---------|---|
| 対象者 | 公立高等学校（88校）に所属する全てのALT |
| 目的 | チーム・ティーチング等の英語授業力に優れたALTの授業を相互に公開・参観し、指導方法等について研究協議を行うことにより、ALTの授業力の向上と各学校における授業改善の推進を図る。 |
| 内容 | 英語授業力に優れたALTのチーム・ティーチングによる研究授業、研究協議、英語教育推進リーダー（JTE）による助言等 |
| 受講予定者数 | 90人 |
| 研修協力校 | 県内7地区、各地区1校（計7校） |
| 外部専門機関等 | 英語教育推進リーダー（企画・指導・助言者） |
| 評価方法 | 研修アンケート（定量的、定性的データ）、ビデオ記録及び分析 |
| 備考 | 英語教育推進リーダーを委員とする実施委員会が企画・運営を担う。 3(1)「外国語指導講師の指導力向上研修」との接続を図る。 |

4 新学習指導要領の周知徹底に資する研修

【高等学校】

高等学校教育課程説明会（悉皆）

| | |
|---------|---|
| 対 象 者 | 高等学校及び特別支援学校英語担当教員 |
| 目 的 | 高等学校学習指導要領改訂の趣旨を説明し、各教科等の具体的な内容を周知・研究することによって、高等学校教育の改善及び充実を図る。 |
| 内 容 | 教育課程編成に係る留意事項、外国語科、英語科における改訂の内容、目標に準拠した指導及びパフォーマンス評価に係る講義・演習 等 |
| 受講予定者数 | 140人 |
| 評 価 方 法 | 参加者アンケート（定量的、定性的データ） |

5 教育の質的保障に資する研修

【小・中学校】

(1) 経年研修（①初任者研修（小）、②初任者研修（中）、③6年次研修、④中堅教諭等資質向上研修）（悉皆）

| | |
|---------|---|
| 対 象 者 | ①初任者（小）、②初任者（中）③5年経験者、④10年経験者 |
| 目 的 | 教員育成指標におけるキャリアステージに応じて、実践・精査・改善を繰り返しながら、外国語科の教員として必要な資質・能力を身に付ける。 |
| 内 容 | ① 小学校外国語教育について（講義） ② 学習指導要領、授業構想について（講義・演習） 代表者による授業公開及び事後研修 等 ③④ 学習指導要領、授業構想について（講義・演習） 自己の授業実践及び振り返りと課題の明確化 |
| 受講予定者数 | ①300人 ②30人 ③30人 ④30人 |
| 評 価 方 法 | 研修アンケート（定量的、定性的データ） |

(2) 小・中学校指導主事訪問

| | |
|---------|---|
| 対 象 者 | 訪問する学校に所属する全教員 |
| 目 的 | 新学習指導要領の趣旨の理解や本県教育理念の周知、校内研修が充実するための支援等を通して、教員の授業力及び資質の向上を図る。 |
| 内 容 | 全教員による公開授業、中心授業の参観と研究協議、研修主任と指導主事の協議、指導主事による指導助言 |
| 受講予定者数 | 訪問校に所属する全教員数 |
| 評 価 方 法 | 研修アンケート（目標達成度及び自由記述） |
| 備 考 | 外国語担当指導主事が訪問をした学校では、外国語活動や外国語科の授業を中心に指導を行う。 |

【高等学校】

(3) 経年研修 (①1, 2年次初期, ②6年次研修, ③中堅教諭等資質向上研修) (悉皆)

| | |
|--------|---|
| 対 象 者 | ①初期研修, ②6次研修, ③中堅教諭等資質向上研修対象者 |
| 目 的 | 教員育成指標におけるキャリアステージに応じて、実践・精査・改善を繰り返しながら、外国語科の教員として必要な資質・能力を身に付ける。 |
| 内 容 | ①授業の基礎技術、学習指導要領の目標及び内容、CAN-DO リストに基づいた学習指導案の作成方法 等 ②学習指導要領の目標及び内容、CEFR 及び CAN-DO リスト、単元構想の作り方 (スモールタスク、Goal Activity/Task)、観点別評価 等 ③「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善、メンターとしての助言・指導の視点 等 |
| 受講予定者数 | ①30人 ②20人 ③30人 |
| 評価方法 | 研修アンケート (定量的、定性的データ) |

(4) 高等学校定期訪問

| | |
|--------|---|
| 対 象 者 | 訪問校に所属する外国語担当全教員 |
| 目 的 | 校内における授業改善や学力向上をねらいとする教科別研修及び教職員全体の資質向上をねらいとする校内研修会において、総合教育センター指導主事が指導・助言等を行うことを通して、各学校の教育力の一層の向上に資することを目的とする。 |
| 内 容 | 年間指導計画の指導・助言、公開授業、研究授業、教科別研修、ALT 面談 |
| 研修協力校 | 全課程 (年 25 校) |
| 受講予定者数 | 訪問校に所属する外国語担当全教員数 |
| 評価方法 | 訪問校校長による評価 |

(5) 静岡県高等学校英語教育研究会との合同研修 (授業研究協議会) (悉皆)

| | |
|---------|---|
| 対 象 者 | 高等学校及び特別支援学校外国語担当教員 |
| 目 的 | 高等学校英語教育における今日的な課題を踏まえ、相互に授業を公開・参観し、授業形態や指導方法等について研究協議を行うことで、英語担当教員の授業力の向上と各学校における授業改善の推進を図る。 |
| 内 容 | 公開授業、研究協議、英語教育推進リーダー及び指導主事による指導講評 |
| 研修協力校 | 県東部、中部、西部ブロック (年 13 校) |
| 外部専門機関等 | 英語教育推進リーダー |
| 受講予定者数 | 100 人 |
| 評価方法 | 研修アンケート (定量的、定性的データ) |

| | |
|-----------------|----------|
| 都道府県等 教育委員会名 | 静岡県教育委員会 |
|-----------------|----------|

※表中、斜線部は記入不要。計画段階では目標値のみ記入。

| 校種 | No. | 指標内容 | 2018 | | 2019 | | 2020 | | 2021 | | 2022 | | | |
|------|-------------------------|-----------------------------|----------------------------------|--------------|------|-------|------|-------|------|-------|------|------|----|--|
| | | | 目標値 | 達成値 | 目標値 | 達成値 | 目標値 | 達成値 | 目標値 | 達成値 | 目標値 | 達成値 | | |
| 高等学校 | ① | 求められる英語力を有する英語担当教員の割合 (%) | 75% | 69% | 75% | 71% | 75% | | 75% | | 80% | | | |
| | ② | 求められる英語力を有する生徒の割合 (%) | 50% | 43% | 50% | 46% | 50% | | 50% | | 55% | | | |
| | ③ | 学習到達目標の整備状況 | 設定 (%) | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | | 100% | | 100% | | |
| | | | 公表 (%) | 100% | 35% | 100% | 43% | 100% | | 100% | | 100% | | |
| | | | 達成状況の把握 (%) | 100% | 62% | 100% | 71% | 100% | | 100% | | 100% | | |
| | ④ | 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合 (%) | 60% | 50% | 60% | 63% | 65% | | 75% | | 75% | | | |
| | 現行課程 | ⑤ | パフォーマンステストの実施状況 ○スピーキングテスト(回) | コミュニケーション英語Ⅰ | 3回 | 3.1回 | 4回 | 3回 | 4回 | | 4回 | | 4回 | |
| | | | | コミュニケーション英語Ⅱ | 3回 | 3.0回 | 4回 | 2.7回 | 4回 | | 4回 | | 4回 | |
| | | | | コミュニケーション英語Ⅲ | 3回 | 2.4回 | 4回 | 2.3回 | 4回 | | 4回 | | 4回 | |
| | | | | 英語表現Ⅰ | 3回 | 2.9回 | 4回 | 3.2回 | 4回 | | 4回 | | 4回 | |
| | | | | 英語表現Ⅱ | 3回 | 3.3回 | 4回 | 2.9回 | 4回 | | 4回 | | 4回 | |
| | | | | 英語表現Ⅲ | 3回 | 2.9回 | 4回 | 2.8回 | 4回 | | 4回 | | 4回 | |
| | | ○ライティングテスト(回) | コミュニケーション英語Ⅰ | 3回 | 3.5回 | 4回 | 3.1回 | 4回 | | 4回 | | 4回 | | |
| | | | コミュニケーション英語Ⅱ | 3回 | 3.0回 | 4回 | 3.1回 | 4回 | | 4回 | | 4回 | | |
| | | | コミュニケーション英語Ⅲ | 3回 | 2.2回 | 4回 | 2.6回 | 4回 | | 4回 | | 4回 | | |
| | | | 英語表現Ⅰ | 3回 | 2.9回 | 4回 | 2.8回 | 4回 | | 4回 | | 4回 | | |
| | | | 英語表現Ⅱ | 3回 | 3.0回 | 4回 | 3.1回 | 4回 | | 4回 | | 4回 | | |
| | | | 英語表現Ⅲ | 3回 | 3.0回 | 4回 | 3.1回 | 4回 | | 4回 | | 4回 | | |
| 新課程 | ○スピーキングテスト(回) | 英語コミュニケーションⅠ | | | | | | | | | | 4回 | | |
| | | 英語コミュニケーションⅡ | | | | | | | | | | 4回 | | |
| | | 英語コミュニケーションⅢ | | | | | | | | | | 4回 | | |
| | | 論理・表現Ⅰ | | | | | | | | | | 4回 | | |
| | | 論理・表現Ⅱ | | | | | | | | | | 4回 | | |
| | | 論理・表現Ⅲ | | | | | | | | | | 4回 | | |
| | ○ライティングテスト(回) | 英語コミュニケーションⅠ | | | | | | | | | | 4回 | | |
| | | 英語コミュニケーションⅡ | | | | | | | | | | 4回 | | |
| | | 英語コミュニケーションⅢ | | | | | | | | | | 4回 | | |
| | | 論理・表現Ⅰ | | | | | | | | | | 4回 | | |
| | | 論理・表現Ⅱ | | | | | | | | | | 4回 | | |
| | | 論理・表現Ⅲ | | | | | | | | | | 4回 | | |
| ⑥ | 英語担当教員の授業における英語使用状況 (%) | 100% | 51% | 100% | 61% | 100% | | 100% | | 100% | | | | |
| ⑧ | 英語担当教員に対する研修実施回数 | 50回 | 49回 | 50回 | 34回 | 40回 | | 40回 | | 40回 | | | | |
| | 研修受講者数 | 1400人 | 1196人 | 1400人 | 818人 | 1000人 | | 1000人 | | 1000人 | | | | |

| 校種 | No. | 指標内容 | 2018 | | 2019 | | 2020 | | 2021 | | 2022 | | |
|-----|-------------------------|-----------------------------|--------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|--|
| | | | 目標値 | 達成値 | 目標値 | 達成値 | 目標値 | 達成値 | 目標値 | 達成値 | 目標値 | 達成値 | |
| 中学校 | ① | 求められる英語力を有する英語担当教員の割合 (%) | 35% | 32% | 35% | 37% | 38% | | 41% | | 44% | | |
| | ② | 求められる英語力を有する生徒の割合 (%) | 42% | 40% | 42% | 38% | 45% | | 48% | | 50% | | |
| | ③ | 学習到達目標の整備状況 | 設定 (%) | 100% | 100% | 100% | 99% | 100% | | 100% | | 100% | |
| | | | 公表 (%) | 40% | 15% | 20% | 19% | 25% | | 30% | | 35% | |
| | | | 達成状況の把握 (%) | 70% | 48% | 55% | 41% | 60% | | 70% | | 80% | |
| | ④ | 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合 (%) | 85% | 79% | 82% | 81% | 85% | | 90% | | 90% | | |
| | ⑤ | パフォーマンステストの実施状況 | スピーキングテスト(回) | 4回 | 3回 | 3回 | 4回 | 4回 | | 4回 | | 4回 | |
| | | | ライティングテスト(回) | 4回 | 3回 | 3回 | 3回 | 3回 | | 4回 | | 4回 | |
| ⑥ | 英語担当教員の授業における英語使用状況 (%) | 85% | 78% | 80% | 81% | 84% | | 88% | | 90% | | | |
| ⑧ | 英語担当教員に対する研修実施回数 | 25回 | 35回 | 35回 | 31回 | 25回 | | 25回 | | 25回 | | | |
| | 研修受講者数 | 500人 | 744人 | 700人 | 873人 | 550人 | | 550人 | | 550人 | | | |

| 校種 | No. | 指標内容 | 2018 | | 2019 | | 2020 | | 2021 | | 2022 | |
|-----|-----------------|-------------|-------------|-------|-------|-------|------|-------|------|-------|------|-----|
| | | | 目標値 | 達成値 | 目標値 | 達成値 | 目標値 | 達成値 | 目標値 | 達成値 | 目標値 | 達成値 |
| 小学校 | ① | 学習到達目標の整備状況 | 設定 (%) | | | | 10% | | 20% | | 30% | |
| | | | 公表 (%) | | | | 5% | | 10% | | 15% | |
| | | | 達成状況の把握 (%) | | | | 5% | | 10% | | 15% | |
| ② | 小学校教員に対する研修実施回数 | 25回 | 37回 | 30回 | 32回 | 20回 | | 20回 | | 20回 | | |
| ③ | 研修受講者数 | 1000人 | 1332人 | 1350人 | 1866人 | 1000人 | | 1000人 | | 1000人 | | |

| 独自 | No. | 指標内容 | 2018 | | 2019 | | 2020 | | 2021 | | 2022 | |
|----|-----|--------------------------|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|
| | | | 目標値 | 達成値 | 目標値 | 達成値 | 目標値 | 達成値 | 目標値 | 達成値 | 目標値 | 達成値 |
| | | 小学校における教員とALT等との役割分担 (%) | 65% | 60% | 63% | 60% | 65% | | 68% | | 70% | |
| | | 教員の授業における英語使用状況 (%) | 65% | 52% | 55% | 54% | 58% | | 61% | | 65% | |